

平成 21 年度北海道札幌月寒高等学校<全日制>卒業式 【 式 辞 】

寒い中にも陽ざしが明るさを増し、春の気配をうかがわせる今日の佳き日、平成二十一年度北海道札幌月寒高等学校第五十八回卒業証書授与式を、このように盛大に挙行できますことは、学校挙げて大きな喜びとするところであります。

日頃より、本校教育推進に御理解と御支援を戴いております、PTA会長菊地浩市様、同窓会長井筒和幸様を始め、御来賓の皆様には、年度末のお忙しいところ御臨席を賜り、厚くお礼申し上げます。

また、御列席いただきました保護者の皆様には、御子様の栄えある御卒業を心からお喜び申し上げます。まさに疾風怒濤の高校三カ年、注がれました御慈愛と御労苦に対し敬意を表しますとともに、本校教育推進に御協力賜りましたことに改めて感謝申し上げます。

ただ今、卒業証書を渡しました三百十二名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

皆さんは今、高等学校の卒業証書を手にして、脳裏には本校入学以来の思い出が走馬燈のように駆け巡っていることでしょう。本年度創立六十周年を迎え名実ともに屈指の伝統校となった「月高」への合格・入学の喜びも束の間、難解で進度の速い授業、進学講習や模擬試験、高体連や高文連等の大会、伝統の月高祭など、盛りだくさんではあっても、瞬く間に過ぎ去った三年間だったと思います。その取組が大学合格等の進路実績、部活動の全道・全国大会への進出などとして実を結び、まさに文武両道で校風を盛り上げました。

こうした高校生活を通して皆さんは、友達や先生方と、確かな友情・信頼を築くことができたものと思います。その掛け替えのない人との「絆」は、いつまでも大切にしてください。

卒業式はまた、将来への夢や希望に胸膨らませ、決意も新たにスタートを切る大事な時でもあります。その皆さんを待ち受ける社会に目を向けてみましょう。皆さんが生まれた二十世紀は、科学技術の高度な進歩が、人類に便利な生活をもたらした反面、核兵器等による大量殺戮や深刻な環境破壊を引き起こしました。そして現在、新しい世紀、二十一世紀になって早十年になりますが、前世紀から解決を先送りされた喫緊の課題は、未だ山積みのままで、地球温暖化や景気低迷、格差問題に到っては待ったなしの状況にあります。この暗雲垂れこめる社会にあって、新たな針路を見定め、切り拓いていくのは、若者の世代、つまり卒業される皆さん一人一人であります。

私は、皆さんが知性と個性を生かして、地域社会或いは道内外の各界、各分野で大いに活躍することを期待して、饒の言葉を贈ります。

それは、「学び続ける人間であれ」ということです。先行き不透明で厳しい時代を、逞しく生き抜くためには、時代の変化に適応する力が必要であり、それは学び続けることで獲得されるものであると考えます。最近のベストセラー『日本辺境論』の著者内田樹氏は「学びは生きる上で重要な役割を果たす。狭隘で資源に乏しい島国が今後も、大国強国に伍して生き延びていくためには、学ぶ力を最大化する他にない。」と述べています。

卒業される皆さんにとって学び続けるとは、自ら進んで教養を身に付け、大局観や総合的な判断力を身に付けるとともに、俗世に拘泥しない精神力を培って、郷土の発展に貢献していくことであると私は考えています。皆さんが、新たな進路先においても日々学業や職務に専念し、困難な時代を逞しく生き抜いていける人間として成長するよう期待します。

さて、保護者の皆様、そして御来賓の皆様、私たち本校職員は、これまで生徒一人一人の学びと育ちのために、精一杯努めてきたつもりですが、至らなかつた点もあつたものと省みています。改めて高等学校教育の使命を共通に認識するとともに、学校評価等をとおして寄せられた御意見や御期待を真摯に受け止め、教育活動の改善・充実につとめて参る所存です。本校発展のため、引続き御支援賜りますようお願い申し上げます。

卒業生の皆さんは、数々の思い出を残し、今日を限りに先生や友達、後輩の皆とも「お別れ」となります。関係の方々への感謝と本校卒業生としての自覚をもって、明日からは新しい人生を颯爽と歩んでください。前途に幸多いことを祈念して、式辞とします。

平成二十二年三月一日 北海道札幌月寒高等学校長 玉利和弘